地元食材を使用した商品を企画
ローソンベーカリープロデュース

▲最優秀校に輝いた八代東高校の生徒

7月10日、高校生によるベーカリー商品開発企画の最終選考会が行われ、最優秀校に八代東高校の「いちご好きのためのクロワッサン」が選ばれました。

これは、ローソンとくまもと県南フードバレー推進協議会が県南地域の高校と連携し、商品開発を行うものです。

最優秀校の商品は、イチゴをぜいたくに使用したクロワッサンで、香りがよく鮮やかな色で〝インスタ映え〟すると評価されました。

吉川星愛さん（八代東高校3年）は「商品化が決定してうれしいです」と話しました。

寺院文化財で郷土を知る
夏季特別展覧会

▲熱心に鑑賞する来館者

7月13日、夏季特別展覧会「八代の禅宗寺院とその寺宝」の開会式が市立博物館で開催されました。

本市には郷土の歴史を語る上で欠かせない禅宗寺院があり、この展覧会では禅宗八カ寺の仏像、仏画、墨蹟（ぼくせき）など45件を展示しています。

初日の開会式で松井葵之館長は「ぜひ郷土の現在、過去、未来に思いをはせてください」と話しました。

会場を訪れた人たちは、博物館学芸員の解説を聞きながら、郷土の文化財を興味深く鑑賞しました。

クルーズ客県内観光を楽しむ
「MSCスプレンディダ」初寄港

▲MSCスプレンディダ関係者との記念撮影

7月15日、スイスの大手クルーズ会社MSCクルーズ社が運行する「MSCスプレンディダ」（総トン数約14万トン、全長333・3m）が八代港に初めて寄港しました。上海からの乗船客約4000人は下船後、約100台のバスに乗り込み、県内各地の観光や買い物を終日楽しみました。

船内で行われた歓迎セレモニーでは、田中浩二副市長が「ぜひクルーの皆さんも市内に足を運び、食事や観光を楽しんでください」と歓迎し、同客船のヴィンチェンツォ・チレント副船長らへ花束や記念品などを贈りました。

防災意識の底上げ
災害時の行動について考えてみよう

▲マイ・タイムラインをつくる参加者

7月31日、麦島コミュニティセンターで地域の小学生と自主防災組織を対象とした防災ワークショップが開催され、約40人が参加しました。

このワークショップは台風による災害から身を守るために、状況に応じてどう行動するかを事前に決める「マイ・タイムライン」を作り、家族で共有することで早めに避難し、逃げ遅れをなくすことを目的としています。

参加者は川の水が氾濫するまでの主な流れを学んだあと、お互いに意見を出し合いながら、自分の生活環境や家族構成を踏まえたマイ・タイムラインを作成しました。

練習の成果を発揮
第13回八代市童話発表大会

▲大会に参加した皆さん

7月24日、やつしろハーモニーホールで第13回八代市童話発表会が開催され、市内の小学校24校の代表者27人が発表しました。

児童は緊張しながらも、それぞれ話し方や表現を工夫し、会場の人たちに語りかけるように話しました。最優秀賞には坂本空（そら）さん（東陽小6年）が選ばれ、10月6日に行われる第57回熊本県童話発表会に本市代表として出場します。

坂本さんは「登場人物のせりふの話し方を頑張って練習しました。八代市の代表として出場するのでみんなの分も頑張りたいです」と意気込みを話しました。

物流企業の立地協定第１号
物流倉庫の新設に伴う立地協定締結

▲左から小野副知事、山田隆社長、中村市長

東京都千代田区に本社を置く日本紙運輸倉庫が物流倉庫の新設を行うにあたり、7月18日に県庁で小野泰輔副知事の立ち会いのもと本市と立地協定を締結しました。

今回の立地協定は、約3億円を投資し、同社の分散する物流倉庫を集約、新設するもので、県がやつしろ物流拠点構想を昨年9月に策定して以降、この締結が物流企業の立地協定第1号になります。

中村博生市長は「やつしろ物流拠点構想を推進する中での今回の立地は、地元経済に活気が出るものと期待している」と話しました。

功績をたたえる
平成30年度八代市有功者表彰式

▲有功者の皆さん

8月1日、鏡文化センターで八代市有功者表彰式が行われました。

これは、毎年8月1日の市制施行記念日に市政に功績のあった人をたたえて表彰を行うもので、今年は産業の発展に尽力した人や消防団分団長、スポーツ推進委員、青少年指導員など27人が表彰を受けました。

中村博生市長が「長年にわたり、献身的なご尽力と多大なるご貢献をいただき感謝しています」と式辞を述べると、有功者を代表して、加来誠一さんが「それぞれの分野でより一層努力して参ります」と謝辞を述べました。

やつしろよかとこよっといで
第51回八代くま川祭り

▲笑顔で踊る参加者

8月4日、第51回八代くま川祭りが開催され、総踊りに57団体、4386人が参加しました。

メインイベントである総踊りにはカッパやアニメキャラクターなどに扮した人たちの姿もあり、暑い夜空の下、参加者は全力で元気に踊り、会場は熱気に包まれました。

また、おりひめJAPANトライアルゲームズ2018に出場するデンマークのハンドボールチーム「ニュークビン・ファルスターHK」の選手や本市と友好交流協定を締結した台湾基隆市の短期交換留学生も参加し、大いに盛り上がりました。

迫力あるプレーが熊本へ
おりひめJAPANトライアルゲームズ

▲力強いシュート

おりひめJAPANトライアルゲームズ2018が8月5日に八代市総合体育館、7日、8日に県立総合体育館で行われました。

5日に行われた「ニュークビン・ファルスターHK」対「オムロンピンディーズ」の試合では、両チームのレベルの高い技術に観客は拍手を送ったり、歓声をあげたりするなど、世界レベルの試合を楽しみました。

試合後に行われたニュークビン・ファルスターHK、オムロンピンディーズ、おりひめJAPANの3チームによるサイン会には観客が長い列を作り、選手と触れ合いました。

災害に強いまちづくり
災害発生時における基本協定締結

▲市内の県立高校と協定を締結しました

本市は八代清流高等学校、八代高等学校、八代工業高等学校、八代農業高等学校、八代東高等学校と災害発生時における避難所としての学校施設の利用に合意し、8月6日、市役所鏡支所で「災害発生時における学校施設の避難所等利用に関する基本協定」調印式が行われました。

この協定は、災害発生時において、学校施設を避難所などとして利用する上での基本的事項を定めることを目的としています。

八代清流高等学校の岩本修一校長は「行政、地域、学校が一体となって避難所運営に努めたい」と話しました。

市政について活発に提案・質問
平成30年度八代市中学生議会

▲市政に対して鋭い質問がでました

8月7日、八代市議会本会議場で平成30年度八代市中学生議会が開催されました。

これは、将来の八代市を担う子どもたちが自分の夢や希望を提言することで市政への関心を高め、まちづくりに進んで参画しようとする意欲を育むもので、今回で2回目です。

市内中学校17校の計34人が中学生議員として、災害対策や地域の活性化などの質問を中村博生市長や北岡博教育長らに投げかけました。

議長を務めた村島悠斗さん（東陽中3年）は「これから市政について関心をもっていきたいです」と話しました。

３年ぶりに本市で開催
全国小学生ABCバドミントン大会

▲本市から出場した岩﨑さん

8月10日から12日まで、第19回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会が総合体育館と東陽スポーツセンターで開催され、各都道府県の代表328選手が熱戦を繰り広げました。

10日の開会式では、八代清流高等学校吹奏楽部の演奏で都道府県ごとに選手が入場。中村博生市長が「夢の実現に向けて未来への一歩を踏み出してほしいと思います」と激励しました。

本市からは岩﨑皓生（こうせい）さん（太田郷小2年）と松浦綾花さん（植柳小2年）の2人が出場し、夢のグリーンコートには届きませんでしたが、持っている力を出しきって戦いました。